

「習近平国家主席の訪日と日中関係の今後」

東海日中関係学会会長 川村範行
(名古屋外国語大学特任教授、中日新聞元論説委員)

1、国際情勢と中国

国際社会における中国の評価は、“存在感を増す中国”と“警戒される中国”の両面に分かれる。

戦後国際秩序を崩すトランプ・アメリカとは対照的に、中国は多国間貿易や地球温暖化対策など国際社会との協調を掲げて主導的な存在感を増している。世界の GDP への寄与率は今後 5 年間で中国が 1 位と予測 (IMF) されている。

一方で、習近平中国が対外的には海洋進出など主権拡張主義、国内的には人権抑圧などの強権独裁主義を強めており、国際社会からの警戒や批判を呼んでいる。香港、台湾からも反発を招いている。

習近平国家主席は「国連憲章の継承」「人類運命共同体の構築」を繰り返し強調。2019 年 11 月、北京で開催された創新経済論壇で、「中国の夢“は決して“覇権の夢”ではない。“和して同ぜず”の伝統的理念を掲げて、平和発展の道を歩み、世界各国と互惠協力を展開していく」と述べた。

中国は米国に代わって世界のリーダーになれるか。今のところ、それは難しい。日本は二面性を持つ中国の本質と方向性をよく見極めて、対中戦略を練る必要がある。

2、日中関係の改善と課題

日中両国は 2012 年 9 月、尖閣諸島 (中国名・釣魚島) 国有化問題により戦後最悪の対立状態に陥ったが、2014 年 11 月以降は習近平国家主席と安倍晋三首相が首脳会談を重ね、2018 年の首脳往来の再開により日中関係が正常軌道に戻ったとされている。特に 2019 年には進展が見られた。

先ず 6 月、大阪 G20 で習主席と安倍首相は「日中ハイレベル人文交流対話」を始動することで合意。11 月に東京で第 1 回日中ハイレベル人的・文化交流対話を開催し、①2020 年を「日中文化スポーツ交流推進年」とする②相互に訪問する修学旅行を復活・拡大する③相互訪問観光者を 1500 万人超にする ― 等を決めた。12 月には北京で習主席と安倍首相の首脳会談があり、「グローバルな大きな視野を以て両国関係を考え計画する」が人民日報一面の見出しに踊った。

一方、日中関係の課題は、安全保障の信頼関係が低いこと。2019 年 10 月の第 15 回北京―東京フォーラム (北京) 安全保障分科会でも指摘された。2019 年には日中の艦艇の相互訪問復活、海空連絡メカニズムの運用が正式決定したが、今後は、陸海空部門の対話と交流、対テロ作戦等の合同演習などの実現が望ましい。ほかにも尖閣諸島問題や国民感情、特に日本人の対中好感度が低いことが挙げられる。

3、習近平国家主席の訪日見通し

一部に異論も出ているが、2019 年 6 月の大阪 G20 で安倍首相が国賓訪日を要請、その場で習主席が受け入れて昨年夏から準備が進められている。第 5 の政治文書を発表するとすれば、キーワードは「新時代日中関係」となる。将来に向けた安定的関係の枠組み構築ができるかどうかがかぎ。地方訪問はピンポン外交 (来年 50 周年) の舞台・名古屋になればいい。(新型コロナウイルス感染拡大の影響は?)

『日本人 70 名が見た 感じた 驚いた 新中国 70 年の変化と発展』(日本僑報社) で、元国際貿易促進協会北京事務所勤務の片寄浩紀さんが「あらゆる分野と階層で人民同士の交流が広がれば、国と国との壁を突き破る大きな潮流になっていく」と記している。私達も人民同士の交流の絆を築いていきたい。